

シンポジウム報告

都城制研究集会シンポジウム
「古代都城をめぐる信仰形態」

2012年2月5日(日)

東アジア的視野の中で古代都城制を解明することは、本センターの重要な研究課題です。そこで21世紀COEプログラムの時以来、毎年1度、都城制研究集会を開催し、都城をめぐる様々な課題を取り上げ、シンポジウムを行ってきました。第6回目となる2011年度は、2012年2月5日(日)に、「古代都城をめぐる信仰形態」をテーマに行いました。

古代においては、都城とそこに基盤を置く天皇権力の安寧・永続を願うために、都城にはさまざまな宗教や呪術に基づく設計思想や儀礼空間を認めることができます。

例えば平城京では、大安寺・薬師寺をはじめ多くの寺院が置かれ、鎮護国家の仏教が展開しました。一方、京内に神社はほとんどありませんでしたが、大祓や道饗祭などの道教的祭祀が盛んに行われ、都城の清浄化が意識されました。また大極殿の名に象徴されるように、都城と天との関わりも忘れられません。さらには、立地と風水思想との関わりも指摘されているところです。これらのさまざまな信仰形態が、古代都城・都市には重層していたのです。

こうした状況を踏まえ、今回の都城制研究集会では、中国北朝の都城や平泉も視野に入れながら、古

代宮都・都城という場をめぐる、神祇信仰・仏教・天の祀り、それに風水思想を総体的に検討したところです。

報告者と内容は、下記の通りです。文献史料や考古学の資料などを総合し、小墾田宮・飛鳥・難波・平城京・平安京・平泉、それに北魏の平城・洛陽、鄴の長安など、時代も地域も幅広い都城・都市を取り上げて検討することができました。

参加者は約120名にのびりました。関係者の方々に感謝いたします。また報告内容は、『都城制研究(7)』で公開いたします。(館野和己)

報告

古代都城をめぐる信仰の諸形態 館野和己(奈良女子大学)

古代宮都と仏教信仰 古市 晃(神戸大学)

古代都城と神祇祭祀 榎村寛之(斎宮歴史博物館)

古代都城と神・仏・天の祀り 西本昌弘(関西大学)

難波京をめぐる宗教環境 積山洋(大阪歴史博物館)

平泉の宗教施設と風水思想 前川佳代(奈良女子大学)

中国北朝都城の祭祀空間 村元健一(大阪市博物館協会)

討論

コメント 古代都城と神の祭り 鈴木明子(奈良女子大学)

司会 出田和久(奈良女子大)・穴戸香美(奈良女子大・院)

共催：都城制研究会(「大阪上町台地の総合的研究—東アジア史における都市の誕生・成長・再生の一類型—」研究代表：脇田修)

科学研究費補助金「古代都城・都市をめぐる環境論」(研究代表：館野和己) 研究グループ



各報告を受けたシンポジウムでの討論

調査報告

南京および周辺の古代都城の調査

上野邦一（古代学学術研究センター特任教授）

2012年3月25日から30日の6日間に、南京と周辺の都城遺跡・皇帝陵関係遺跡を調査した。調査団は、文学部館野和己教授、出田和久教授、奥村和美准教授と、古代学学術研究センター宮崎良美特任助教と私である。調査に赴いたのは、南京市の呉及び六朝期の建康城関係遺跡、揚州市の隋・唐・宋代の揚州城関係遺跡、鎮江市の唐・宋代の古城関係遺跡、丹陽市の六朝期の皇帝陵関係遺跡等である。出土品を展示する関係博物館も訪れた。

日本古代都城の研究には、中国の古代都城との比較研究が不可欠であるが、これまでの中国南朝の古代都城との比較研究は多くない。今回の調査は、南京とその周辺の古代都城と関連遺跡を調査し、所見を得ることを目的とした。とくに、南京大学の張学鋒教授や揚州市文物考古研究所の劉剛参研究員など、現地の調査担当者や南京大学研究者から、この地域の都城の特徴や立地環境について説明を受け、有益であった。

以下、実地調査した順序に沿って概説する。

南京の諸相。南京は中国南朝の都城“建康”で、研究の蓄積は多くなく、未解明の都城である。都城の北に位置する九華山公園では、市街地を一望し、都市全体の様相を知った。ただ、市街地化がすすみ、古代の都市の様相は道路などで辿るしかなく、現地研究者の説明を聞かないと分からない。すなわち、

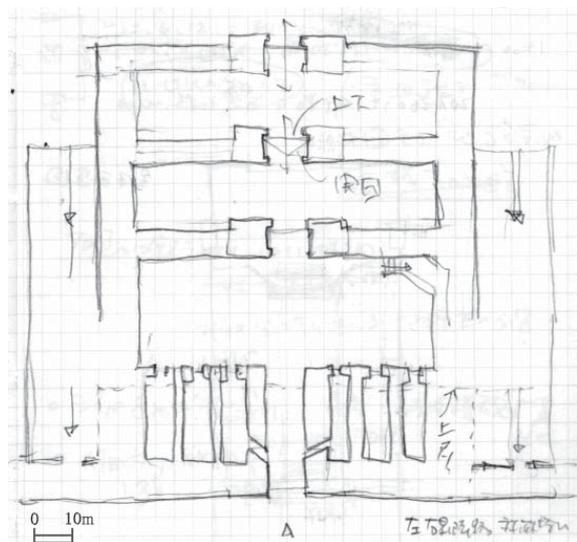


図1 南京中華門 平面図

都城の中軸線が北で東に15度ほど振れていることが建康の特徴で、研究者の指摘で道路を手掛かりに確認できた。中軸線上の北に九華山が位置している。近年建設された南京図書館では、発掘調査で検出した遺構の上をガラス板で覆い展示していた。次に明代の城壁と城壁に開く中華門を訪れ堅固な城門に驚いた（図1）。中華門の構造に積んでいる磚には刻銘が多くのこり、生産地・生産者を記すものがある。先学の研究では、生産のほかに監督官の名もあることが分かっている。南京市博物館になっている朝天宮（図2）を見学・調査して、次に公園になっている石頭城城壁を訪れた。一部自然の岩盤を利用して城壁としていた。

揚州の諸相。奈良の唐招提寺を開いた鑑真がいた大明寺を訪れた。ただ、当初に遡る建物はなく清代の建物が複数のこっている。ついで、唐代の城壁を保護している唐城壁博物館に入る。当時の城壁の構造・規模が理解できた。宋代～明代揚州城の北門跡、東門、南門跡、西門を順次見学した。東門では門前の古い町並みをのこす。南門跡ではガラスを主体とする覆屋を建て、中で検出した遺構を展示していた。

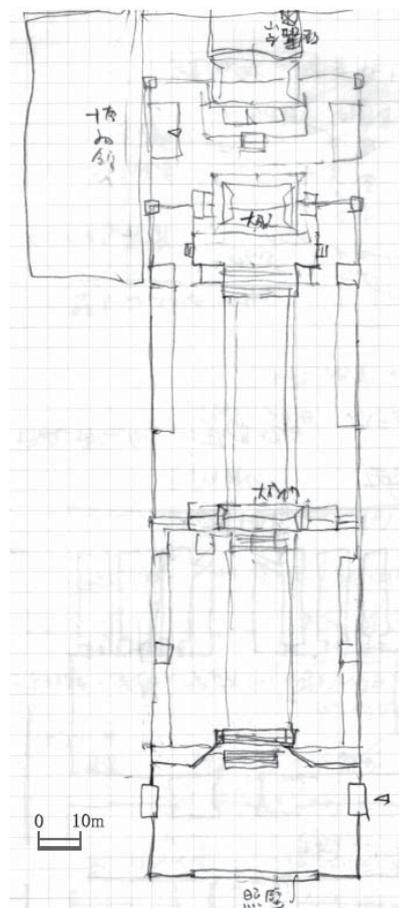


図2 南京朝天宮 平面図



写真1 宋代～明代揚州城南門の展示



写真2 南朝の陵墓の調査風景

一般公開していない様子だった。(写真1)

南京周辺の梁・武帝墓(写真2)を訪れたあと、甘家港小学校で周辺の墓から出土した石製品を見学した。その後古城公園で城壁を見学、さらに景帝陵と近くの陵墓群を見学した。

郊外の靈谷寺、ここには無梁殿と呼ぶ建物が国家重要文物の指定を受けている。これは、日本の重要文化財の指定にあたる。梁を使わない構造が珍しく、この名があり、木造であれば極めて珍しい構造となるので、行く前までは未知の構造があるのではと期待した。この建物は木造ではなくレンガ造でアーチを組みヴォールトとするので梁が無いのである。レンガ造でアーチを組み上げるのであれば梁がないのは当たり前で、その意味では期待はずれであったが、建物は堂々とした見応えのあるものであった。(写真3・図3)

遺跡の保護の手法として、遺構をガラスなど覆ってガラスの上から見るようにしたり、覆屋を建てて展示する手法をたびたび見た。しかし、見学者が少なく、遺構の状態は芳しくないケースが多く、管理が大変という印象を受けた。もう一つの手法は遺跡公園とすることで、公園になっている場合は人々が集まって空間を利用していた。

調査を通して、中国南朝の都城と関連遺跡を、地元の研究者の説明を得て見学でき多

くの所見を得た。今後も研究交流が必要であろう。

[付記] 本報告中の図はすべて筆者によるものです。



写真3 靈谷寺無梁殿正面

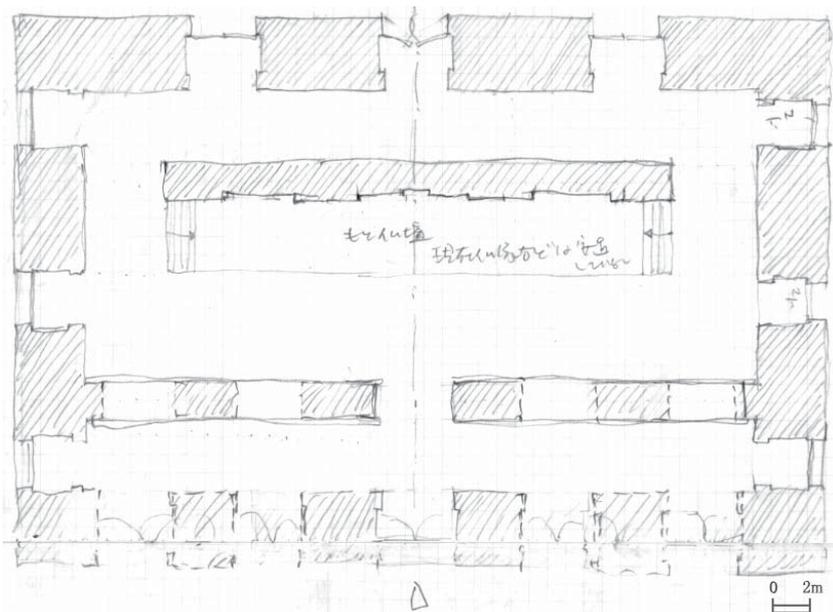


図3 靈谷寺無梁殿 平面図

研究会報告

古代学学術研究センター研究会

古代のみやこを考える (2011年11月26日)

「5・6世紀の倭王宮に関する基礎的考察」

古市 晃 (神戸大学)

センターの古代都城制研究の一環として、近年ヤマト王権時代の王宮をめぐる、旺盛に研究をされている古市晃氏を迎え、研究会を開催しました。

古市氏は奈良盆地東南部に所在した倭王宮の実態と、その機能の解明を、王名を通じた王宮の検討という方法論で目指そうとされました。そして5, 6世紀に磐余・泊瀬・石上などに置かれた諸宮について、宮号からは5世紀代の歴代遷宮は確認できないこと、磐余部・泊瀬部・石上部などの名代は、広域地名に基づく宮号をもつ諸宮に関わるものであり、特定の王族に奉仕するものではなく、王宮が設置された地域としての特殊な奉仕集団であり、6世紀以降に架上されたものではないと主張されました。またそれらの倭王宮は、倭王の治世が終わると廃棄されるのではなく、維持・管理されたとされました。

その後、磐余・泊瀬の開発と5世紀の王宮の関係に触れた後、磐余・泊瀬に王宮が立地した理由に言及され、そこが台地上で交通の要衝であることから、王族間の対立があるという状況下で、軍事的機能が選択された結果であること、6世紀以降も状況の緊張と安定に応じて、王宮の地が選ばれたことなどを指摘されました。

記紀の史料を駆使された、刺激的な報告でした。

(館野)

研究成果の発表・公開

刊行物案内

研究論集『古代学 第4号』および『都城制研究 (6)』が、2012年3月に刊行されました。

古代学 4

「声のこぼれ、文字のこぼれ—古事記と万葉集から、古代日本の口頭語を考える—」 奥村悦三

「古事記の固有表名記をめぐる—一神名、人名における「高」をめぐる—」 乾善彦

『古事記』と木簡に見える国名表記の対比 館野和己

「クメールの前近代都市についての覚え書き」 上野邦一

「東大寺法華堂創建小考」 松村淳子

「御簾を下す—平安期天皇の物忌に関する一考察—」

小林理恵

「日本の古墳からの出土品に含まれる絹試料の質量分析—質量分析による絹の特定とその古代的考察—」

中沢隆・河原一樹・宮路淳子

「膠に生育する真菌に関する研究」

宮水晶・宮路淳子・鈴木孝仁

『唐人墨製問答之記録』—「古梅園造墨資料」翻刻と解題 (2) — 松尾良樹・的場美帆

「後白河院と法勝寺千僧御読経」 森由紀恵

「稚日女尊の「神退」」 阪口由佳

『歌枕名寄』と『五代集歌枕』—所収万葉歌の比較を中心に— 樋口百合子

「陽明文庫所蔵『万葉字訓』考—附・翻刻」 大石真由香

都城制研究 6

「宮都の廃絶とその後」 館野和己

「飛鳥宮の廃絶」 鈴木一議

「平城遷都後の藤原宮・京」 林部 均

「難波宮・京の廃絶とその後」 積山 洋

「廃都後の平城宮」 山本 崇

「長岡京遷都後の平城京」 中島和彦

「平安京遷都後の長岡宮・京」 中島信親

『萬葉集』に詠まれた古都 奥村和美

お知らせ

研究会・シンポジウム

第7回 都城制研究集会「古代都城と寺社」

都城制研究集会は前回の都城をめぐる宗教・信仰をうけて、テーマを仏教・神祇祭祀に絞り、大宰府も含めて議論をより深めていきます。

日時：2013年2月16日(土)

会場：奈良女子大学

申込・参加費不要です。

詳細は本センターホームページでお知らせします。

奈良女子大学古代学学術研究センター

Newsletter No. 4

2012年12月21日発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

奈良女子大学コラボレーションセンター 205号室

TEL/FAX: 0742-20-3779

URL: <http://www.nara-wu.ac.jp/kodai/index.html>

e-mail: kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp

編集：館野和己・宮崎良美